



平成 21 年 7 月 30 日

各 位

会 社 名 新日鉱ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 高萩光紀
 コード番号 5016 東証一部・大証一部・名証一部
 問合せ先 取締役 総務グループ総務担当 加賀美和夫
 電 話 03-5573-5129

連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 4 月 30 日に発表した平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間(中間期)の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 21 年 4 月 30 日発表)	1,410,000	44,000	50,000	25,000	26 円 99 銭
今回修正予想(B)	1,460,000	40,000	46,000	23,000	24 円 83 銭
増減額(B-A)	50,000	△4,000	△4,000	△2,000	—
増減率	3.5%	△9.1%	△8.0%	△8.0%	—
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期 第 2 四半期)	2,378,509	50,897	87,538	45,779	49 円 39 銭

<修正の理由>

売上高は、原油情勢を反映した石油製品価格および金属価格の上昇を主因として増収となる見込みであります。経常利益は、原油価格上昇による在庫評価益の増加、銅価上昇・電材加工製品の増販に伴う増益はありますが、石油製品のマージン悪化、自家燃コストの上昇等を主因として、40 億円減少し 460 億円となる見込みであります。また、当期純利益は、経常利益の減少等により、20 億円減少し 230 億円となる見込みであります。

<セグメント別経常利益内訳(平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想)>

(単位:億円)

		前回発表	今回発表	差異	経常利益差異説明	20/上実績
石油 グループ	売上高	10,800	11,200	400	石油製品のマージン悪化、自家 燃コストの上昇等により減益	17,978
	経常利益	410	360	△50		264
金属 グループ	売上高	3,100	3,250	150	銅価上昇、電材加工製品の増販 等により増益	5,574
	経常利益	95	115	20		543
独立機能 グループ	売上高	350	310	△40		394
	経常利益	△5	△15	△10		68
消 去	売上高	△150	△160	△10		△161
	経常利益	500	460	△40		875
計	売上高	14,100	14,600	500		23,785
	経常利益	500	460	△40		875

2. 平成 22 年 3 月期 通期連結業績予想について

通期の業績予想については、原油価格、金属価格、為替相場の動向などが先行き不透明であるため、今回は修正せずに据え置き、第 2 四半期の決算発表時に修正する予定です。

【参考】 21/上期 前提条件

		前回発表	今回発表	差異	20/上実績
共通	為替レート(円/\$)	100	96	(-)4	106
石油グループ	原油FOB(\$/BBL) <ドバイスポットベース>	50.0	62.1	(+)12.1	115.1
	パラキシレン市況(\$/t) <ACP(実勢)ベース>	920	978	(+)58	1,339
金属グループ	銅価(¢/lb)	190	216	(+)26	366
	電気銅販売量(千t/期)	297	307	(+)9	308
	環境リサイクル金回収量 (t/期)	4.0	3.2	(-)0.8	3.7
	圧延銅箔販売量 (百万m/月)	2.1	2.6	(+)0.6	3.4
	精密圧延品販売量 (千t/月)	2.4	3.0	(+)0.6	3.6

(注)7-9月前提条件:為替レート(95円/\$)、原油FOB(65\$/BBL)、銅価(220¢/lb)

(注)上記の業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいています。実際の業績等は、様々な要因により予想とは異なる結果となる可能性があります。

以上